

令和八年度入学試験問題

国語

問題用紙

〔一〕 次の文章を読んで、後の問い(問1～5)に答えなさい。

芸術というのは、いろんなことを感じていい、考えていいと(ア)ウナガしてくれるものです。想像力の広がりを示しているわけです。と同時に、アーティストは、自分には思いつかないような、ものの限定の仕方を教えてくれる。「こういう形にするのか」という面白さです。概念と言えば、それは、ある個性的な仕方です。「有限性」を示すことです。多すぎる可能性のなかで、作品という有限なものを仮固定する。

ある特定の形にこだわる画家がいれば、ある響きにこだわる音楽家もいる。それは絶対のものではありません。人によって違うわけです。ですから、芸術になじむには、いろんなアーティストのいろんな作品を見ることが大事です。ものを限定するやり方にはいろいろあるということ、つまり、A「有限性の多様性」がわかるからです。それによって自分の生き方が(イ)ジュウナンになっていく。自分の生活においても、楽しみを見出せるポイントはもつと多様だということに気づくでしょう。

たくさん例を見ることが、仮固定でいいんだということがわかってくる。風景を描くときに、絶対唯一、最高の描き方というものはない。さまざまな作品のあり方は、どれも仮のもの。最高傑作とか(ウ)キウキョクの何々と呼ばれるものがあるわけですが、たくさん見ているうちに、「確かにそれは傑作だけど、他にもいいものはある」という感覚が育ってきます。

現実の目的達成では、しばしば、他にはやりようがなくてそうするしかないという結論になるわけですが、芸術はそうではなく、多様性や相対性を教えてくれるのです。そして、大きく見て人生のリズムというもの、いろいろいいじゃないかということになる。

多様な芸術があるということに近づけて、人生の多様性を肯定できるようにしていく。ただ、ここには重要な(エ)ショウトツがあり、人間社会には、こうするのが正しい、これが善でこれが悪だという倫理や正義の問題があります。倫理や正義に関し、絶対のものはあるかどうかにはここでは立ち入りません。現実の問題に対して自分はどういう立場をとるべきなのかという悩みは尽きないでしょう。しかし芸術には、B「どうすべきか」の手前の時間があります。これは現実から目を逸らすことではありません。人間と出来事に対する別の見方を探るということです。

こういう言い方には反発を抱く人がいるかもしれませんが、どんな悪人の人生でも、芸術的観点で見ればひとつの作品だと言えます。実際、文学作品では、現実の社会では許されないことが、人間のある種どうしようもないひとつの可能性として描かれます。そのときにそれは、「こういう悪い人間に気をつけましょう」といった注意喚起のメッセージを発しているわけではありません。

人間というのは、根本的に可能性の溢れ^{あふ}を生きている動物であって、その溢れには、何らかの規範から外れること、端的に言って悪も当然含まれます。それゆえに、現実の社会運営では、人が共に生きていくために必要な制限や禁止が設定されている。ですが、そもそも人間が、悪まで含めて途方もない可能性の溢れを生きているということを表現において認めるのが芸術の力であり、それは、人間が人間たる条件を認めていることにほかならないのです。

人間は、他の動物に比べて、非常に大きく可能性を余らせている存在であり、だから(オ)チエン^注を生きている一方で、やはり動物なので、目的を最短で達成しようとする傾向もある。この二つが綱引きをする。さっさと目的達成ができることが快である面もあり、他方で、まさに人間らしさとして、途中でまごまごすること、サスペンスを楽しむ面もある。サスペンスは不安、不快でありながら面白い。ラカンの享樂^注です。

実際の目的達成をするのではない余暇の過ごし方として、二つの傾向が考えられます。

ひとつは、目的達成の楽しさをシミュレーションする方法で、架空の目的に向けて何段階ものハードルを設定し、そのサスペンスを楽しむというもの。それが遊びやゲームであり、これはあくまでも目的志向なので、おそらく本能的になじみやすく、芸術よりもポピュラーだと言えるでしょう。やはり人は動物であって、目的達成が生きていることのメインだからです。

それに対して、目的達成より途中の宙づり状態がメインになると、より芸術的になってくる。ただ、それは不安と背中合わせなので、目的性がよりはっきりした遊びやゲームに比べてCポピュラリティが低くなります。

人間の生活は、目的志向と、宙づりを味わう不安混じりの享樂という二つをミックスすることでできている。人によってはそのバランスがどちらかに片寄っている場合があるでしょう。

ゲームにせよ、芸術的な宙づりにせよ、人間にとって楽しさの本質というのは、ただ安心して落ち着いている状態ではないわけです。楽しいということは、どこかに「問題」があるということです。漠然と問題があつて、興奮性が高まっていることが、不快なのに楽しい。楽しさのなかには、そのように「否定性」が含まれている。普通は、否定的なものは避けようとするので、このことは意識に上ってきません。しかし、芸術あるいはエンターテイメントを考えると、Dこれは非常に本質的なことです。

(千葉雅也『センスの哲学』より、一部改変。)

注 ラカン…… Jacques Lacan (1901~1981)。フランスの精神分析学者。「快」と「不快」とが入り混じる衝撃的で不可解な気持ちよさを「享樂」と呼んだ。

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直して書きなさい。

(ア) ウナガして (イ) ジュウナン (ウ) キュウキョク (エ) ショウトツ (オ) チエン

問2 傍線部A「有限性の多様性」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、記号で書きなさい。

- ① 芸術作品は一つ一つが完成された作品であり、他の作品と比較することはできないということ。
- ② 芸術家によってものを限定する仕方がそれぞれ異なり、作品の形は様々であるということ。
- ③ 芸術には無限の可能性があり、人はそのなかから自分に合ったものを選ぶということ。
- ④ 最高傑作と呼ばれる作品は限られているが、その価値観は時代により多様に変化すること。
- ⑤ 芸術作品を多く見ることで、自分の感じ方や考え方の限界を知ることができるということ。

問3 傍線部B「どうすべきか」の手前の時間があります」とはどういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、記号で書きなさい。

- ① 芸術は倫理的判断を保留し、現実の問題から一時的に目を逸らす時間を与えるということ。
- ② 芸術は善悪の判断の前に、人間や出来事を別の視点から見る機会を提供すること。
- ③ 芸術は善悪の判断基準を相対化し、多様な価値観を認める態度を育てること。
- ④ 芸術は倫理的な問題を扱わず、美的な楽しみだけを追求する時間を持つということ。
- ⑤ 芸術は作品をじっくり鑑賞することで、倫理的な思考を深める時間を与えるということ。

問4 傍線部C「ポピュラリティが低くなります」とあるが、その理由を、一〇〇字以上一二〇字以内で書きなさい。

問5 傍線部D「これは非常に本質的なことです」とあるが、「これ」とは何か、本文に沿って具体的に書きなさい。

(二) 次の文章は、大正時代の社会主義者、O(大杉栄)との日常を描いた伊藤野枝の随筆である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えなさい。

十一月の末近い頃である。豊島新聞記者と云ふ肩書つきの名刺を持った男が来た。何だか其の目つきにA『例の奴』を思はせるいやな光は見たが、とにかく通した。

その客は叮嚀に初対面の(A)アイサツをすまして四方山の話^{よもやま}を初めた。Oは最初から頑固に黙つてゐた。少しも合槌^{づち}を打つて貰へない客の話は初めから間の悪いものになつて、それを取り繕^いらはうとする程、話はますます空々しい調子になつて行つた。

「で、君は何の用で来たんです。」

暫くしてOは重い、詰るやうな調子で、初めて口を切つた。

「はつ。」

客は如何にも(イ)キョウシユクしたやうな返事をして、いろ／＼と余計な事を云つてゐたが、要するに自分の新聞に寄稿をお願いしたいのだと云ふ。Oは書くとも書かないとも返事をしないで矢張り黙つてゐる。すると客は又話をそらして何とか返事をさせるやうに仕向けるつもりで喋舌^{しゃべ}り続けた。そして、

「此頃は^{この}大分長く少しも外出をなさらぬ様ですが、いろ／＼と御不自由な事もありませうから、市内への御用がありましたら何なりと御(ウ)エンリヨなくどうぞ……」

など、親切らしいお世辞を云ひ出した。しかしこれも要するに、どうして外へ出ないと云ふ事を知つてゐるのかと云ふOの詰問にまごつかされる種子に過ぎなかつた。そしてやつと其のまづい申しひらきが済むと、此度は此頃何か(エ)チヨジユツでもしてゐるのかとか、出版したいと思ふ本はないかとか云つて、

「実は若し何か出版でもなさるやうであれば物質上の御援助をしたいと思つてあがつたんですが、とおぢ／＼しながら申出た。

「物質上の援助と云ふと、出版費でも出さうと云ふんですか。」

「え、その、それなんです。」

客は急に元気づいたやうな調子で云つた。

「はあ、すると、君が今日僕を訪ねて来た用事と云ふのは、新聞に原稿を貰ひたいと云ふのと、何か用があつたら足してやりたいと云ふのと、それに出版でもするなら其出版費を出してやらうと云ふのと、此の三つなんだね。では、其の一々に返事をしよう。原稿書きは僕の商売だから何でも書く。用事も足してやらうと云ふなら有りがたく足して貰はう。出版費もこれ又有りがたく出して貰ふ事にしよう。だが、君は実に偉い人だ。見ず知らずのはじめて会つた人間に、用

も足してやる、金も出してやる、実に感心な偉い人だ。」

「いや、決してさう云ふわけでもないんですが、それに、金の方は実は私が出すのではないんで、或る有力な資産家で先生の為めならと云ふ人があるんです。」
「はあ、さう云ふ御深切な人がまだ別にあるんですか。では、出版費の方は是非お願いするとして、其前にこんどはこつちから一つ御願ひしたい。それ程の御深切な人なら、僕が今非常に困つてゐると云へば少し位の小遣は出してくれるだらう。」

「ええ、それはもう……」

「実は今急にちよつと入用があるんだがB二三日中に百円ばかり貰つて来て貰へまいか。いゝかい、急ぐんだよ、二三日中だよ、ぢやそれまで御待ちしてゐよう。」

「はつ、承知いたしました。」

客は歸つた。私達は顔を見合はせると、堪へてゐた可笑しさを一時に押し出すやうに笑ひこけた。
それから十日ばかりして、帝大の法科の学生だと云ふ、矢張り目つきの少し変な男がやつて来た。

「こんどは手をかへて来たのかな。」

私はさう思ひながらも、しかし半分は其の角帽に信用して、風邪で床に(オ)ツいてゐたOに取次いだ。

「先生の御主義について伺ひに来た」其の学生は、やはり長い事一人で四方山の話喋舌りつけてゐた。

「君は軍隊にゐた事があるでせう。」

Oは暫くして口を開いた。

「は、一年志願で……」

「では予備少尉ですな。どうも君の様子が一向学生らしくなくて、全くの軍人のやうに見えたもんだから。」

そしてOは、学校では法律をやつてゐるのか政治をやつてゐるのかと聞いて、法律の講義を聞いてゐてどうして社会主義などに注意するやうになつたのかと、やはり又詰るやうに云つた。客は得意らしく、しかし極く不得要領に、切りに喋舌りたてた。Oは其の不得要領な点を一々厳しく追窮した。客は問はれれば問はれる程益々不得要領になつて行つた。そして教授の名を聞かれると一々小さな手帳を出して見て答へた。

「社会主義と云ふのは一体どう云ふものなんです？」

とう／＼客は、こんどは、向ふから問を出して来た。

「君は経済学をやつたらう。経済学には社会主義の事が入つてゐる筈だ。先づ君の知つてゐるだけの事を話して見たまへ。いや、知らない筈はない。又聞かない

答はない。一体誰れに経済学を教はつたんだ。」

客は又例の手帳を取出して暫くして漸く

「松崎博士です。」

と答へた。そして其のてれ隠しに大急ぎで云つた。

「今日のやうな社会で社会主義などを唱へるのは実に損ですな。しかし、どうして警察は先生などに毎日尾行をつけるやうな馬鹿な事をするんでせう。それに……」

Oはもう堪らえ切れないと云ふやうに、額の筋をびり／＼動かしながら、急に蒲団ふとんの中から手を突き出して、強い大きな声で遮ぎりとめた。

「待ちたまへ、其前に君に一つ聞く事がある。君は法科の学生だと云つて来たが、Cそれは嘘うそだらう。いや、言訳は聞かない。それに一年志願をやつたと云ふのも嘘だらう。なに本当だ、よし、それでは予備少尉に対する軍事上の質問を出して見る。どうだ、Dきつとそれに答へられるか。いや余計な事は云はんでもない。答へられるかどうか、其の返事だけすればいいんだ。どうだ、答へられるか。なに、出来ない。馬鹿！ もういいから帰れ。帰つてさう云へ。貴様のやうな馬鹿ではとても勤まらんから、もつと伶俐りりな奴をよこせつて。いゝか、早く帰つてさう云へ。馬鹿！」

客は自分の嘘がばれても、大きな声で馬鹿！と怒鳴られても、一向平気な様子だつた。そして、

「誠に相済みません。謝罪します。しかし私は決してお疑ひになるやうな職掌のものではないんで……」
と其事の弁解をし出した。

しかし、再びOに激しく怒鳴りつけられると、あはてゝ幾くつも／＼頭を下げて、悄悄しおしお立って帰つて行つた。

E私達は又腹をかくへるやうにして笑ひこけた。

（伊藤野枝「妙なお客様」『定本伊藤野枝全集第三卷』より、一部改変。）

問1 傍線部ア～オのカタカナを漢字に直して書きなさい。

(ア) アイサツ (イ) キョウシユク (ウ) エンリョ (エ) チョジュツ (オ) ツいて

問2 傍線部D「きつと」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、記号で書きなさい。

- ① 瞬間的に集中して行われるさま。
- ② 自分の推測が正しいと信じるさま。
- ③ 心身を緊張させて行うさま。
- ④ ある動作が確実に行われるさま。
- ⑤ 相手に必ずしてほしいと要望するさま。

問3 傍線部A「『例の奴』を思はせる」とあるが、『例の奴』とは何か。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、記号で書きなさい。

- ① Oの金銭を騙し取ろうとしている詐欺師
- ② Oに本の出版や原稿を依頼したい新聞記者
- ③ Oを監視するために送り込まれたスパイ
- ④ Oに金銭的な援助をしたい支援者の使いの者
- ⑤ Oの思想を論破しようと訪ねてきた活動家

問4 傍線部B「二三日中に百円ばかり貰つて来て貰へまいか」とあるが、なぜそう言ったのか。その理由を本文に沿って六〇文字以上八〇文字以内で書きなさい。

問5 傍線部C「それは嘘だらう」とあるが、なぜそう言ったのか。その根拠を本文に即して二つ書きなさい。

問6 傍線部E「私達は又腹をかゝへるやうにして笑ひこけた」とあるが、なぜ「笑ひこけた」のか。その理由を八〇文字以上一〇〇文字以内で書きなさい。

令和八年度入学試験問題

国語

解答用紙

受験番号

問
1

ア

$$\frac{\text{L}}{\text{T}} = \text{I}$$

ウ

I

才

問
2

問
3

問
4

問
5

(三)

問 1

ア

イ

ウ

エ

オ

いて

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6